

I. 事業の概要

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類感染症へと移行して以降、社会活動は緩やかに平常化へと向かい、飲食・娯楽など対面型サービスへの需要や訪日外国人観光客数は回復基調を示しています。一方で、原油・資源価格の上昇、円安、人手不足等の影響により、食料品や光熱費をはじめとする生活関連コストは高止まりし、企業・家庭の双方にとって依然として大きな負担となっています。

このような経済環境の中、当財団は、九州大学病院における医学研究の奨励助成、患者支援、ならびに職員・学生の学事研修等の支援を継続し、設立趣旨に則った公益事業の推進に努めてまいりました。

令和6年度は、特定寄付金の一部留保を実施しつつ、公益目的事業には約2,097万円を支出いたしました。病院内事業では、外来患者や見舞客の回復（制限付き）を背景に、ローソン、ロイヤルホスト、職員食堂、タリーズ各事業の収入が前年を上回りました。しかしながら、ロイヤルホストおよび職員食堂においては、人件費・材料費等の外注費が増加し、予算を超過する結果となり、経営上の課題が残る状況です。

また、薬局事業においては、病院を取り巻く環境の変化を受け、8月末をもって門前薬局2店舗を閉局いたしました。これに伴い、勸奨退職による一時的な人件費の増加や、残薬品処分に伴う売却損が発生し、財務面への影響は避けられず、当期の一般正味財産は約6,243万円の減少となりました。

II. 事業の内容

事業については、移行時に策定した公益目的支出計画に沿って、奨励助成事業や患者の支援事業を実施しました。また、その他の事業においても、令和6年度事業計画に基づいて活動を行いました。

(実施事業)

1) 医学研究及び学事研修に関する助成事業(特定寄附)

- ・ 学術研究及び医学研究の助成 ⇒ 当面留保
- ・ 病院運営の助成 ⇒ 当面留保
- ・ 臨床看護研修の助成

2) 地域医療の発展及び振興の助成事業

- ・ 医学雑誌発行の助成 ⇒ 終了

3) 患者の慰安に関する支援事業

- ・ 精神科・神経科病棟行事の支援
- ・ 小児科病棟行事の支援
- ・ クリスマスツリー・イルミネーション飾り等の支援
- ・ 入院患者及び家族への宿泊施設の提供

(その他の事業)

1) 院内療養施設等の環境の整備事業

- ・ 外来棟及び各階ディールームの観葉植物設置・管理
- ・ ハートセンター庭園の管理運営
- ・ 外来棟玄関庭園の管理運営支援
- ・ 雛飾り設置の支援
- ・ 外来患者服用飲料水の提供

2) 医療従事者への福利厚生事業

- ・ グラウンド라운드의協賛及び助成
- ・ 同窓会評議員会及び卒業生入会歓迎会の助成
- ・ 看護師等教職員向けマンションの貸付

3) 入院療養に必要な諸施設等の提供事業

- ・ 付添寝具の貸出、病衣の配備
- ・ 入院患者療養設備（テレビ・冷蔵庫・床頭台）の保守管理

4) 必需品の販売・貸付・役務の提供事業

- ・ ローソン九州大学病院店、ウエストウイング棟売店の運営
- ・ ロイヤルホスト九州大学病院店、ロイヤル職員食堂
- ・ タリーズコーヒー九州大学病院店
- ・ 宅急便・電報の取次ぎ及び公衆電話・自動販売機の管理運営
- ・ コピー・ファクシミリサービス

5) 保険薬局事業

- ・ 恵愛団薬局、森の家薬局の運営 ⇒ 令和6年8月末閉局